

ひつつき虫の待ちぶせ作戦

秋、草むらや林の縁を歩いた時、いつの間にか服やくつに実や種子がついていたことはありませんか？ 針のような突起やのりのような粘りでくっつき、はずすのが面倒です。虫ではありませんが、小さな虫のように見えることからひつつき虫と呼ばれます。

林の縁のひつつき虫

林の道を歩くと、ズボンによくついてくる、大きさ5mm程度の丸っこいひつつき虫は、キンミズヒキの実です（図1）。かくの先端から伸びている多くのかぎ針で、ひつつきます。来た道を戻ると、丸っこい実を一行に並べてつけたような穂が見つかるでしょう（図2）。林の縁では、キンミズヒキの他にイノコズチやヌスビトハギ、メナモミなどのひつつき虫がつきます（図3）。

動物を待ちぶせる

植物は、種子を遠くに送りだして、生育地を広げようとしています。林の縁はタヌキやキツネなどの動物が通りやすい所です。ひつつき虫の実や種子は、通りかかる動物の体にくっついて遠くに運んでもらいたいのです。運んでもらった先で、ぼとりと地面に落ちるとよいのですが、動物が毛づくろいをして毛にからんで取れないことがあります。ひつつき虫は、まるで考えたかのように、動物たちが夏毛から冬毛へと生え替わる頃に実ることで、抜け落ちる夏毛とともに地面に落ちるのです。

（坂井奈緒子）

今月のカガクのギモン

草むらには、どんなひつつき虫がいますか？
 （答えは当館ホームページをご覧ください。）

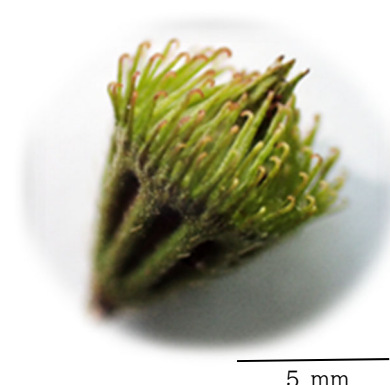


図1 キンミズヒキの実



図2 高さ50cm程度の草で、実が縦につく穂をもつ



それぞれの縦線は、長さ5mm



図3 イノコズチ・アレチヌスビトハギ・メナモミ